

格付据え置きのお知らせ

株式会社富山第一銀行(頭取 横田 格)は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、以下のとおり格付を据え置く旨の通知を受けましたのでお知らせいたします。

1. 格付機関 : 株式会社日本格付研究所(JCR)
2. 格付 : 『**A**』(シングルAフラット)
3. 格付の見通し: 『安定的』
4. 格付の対象 : 長期発行体格付
5. 格付の主な評価理由
 - (1) 富山県に本店を置く資金量約 1.1 兆円の第二地方銀行。格付は、地元金融マーケットにおける一定のプレゼンス、健全性の高い貸出資産の質、充実した自己資本などを反映している。貸出をめぐって厳しい競争が続くなか、有価証券運用における利回り改善策や経費削減などが寄与しコア業務純益(投信解約益を控除した実質ベース)は堅調に推移している。中小企業向けを中心とする貸出増強の進捗をフォローするとともに、有価証券運用におけるリスクテイクの動向を注視していく。
 - (2) 19/3 期の実質的なコア業務純益は 2 期連続の増益となった。有価証券利息配当金の増収が続いているほか、本店建て替えにかかる償却負担の減少などが寄与している。ROA(実質的なコア業務純益ベース)は約 0.4%と良好な水準である。一方で、貸出金利息は減収が続いており、当面も過去に実行した比較的利回りの高い地方公共団体向け貸出の減少による影響が見込まれる。中小企業向けなど比較的利回りの高い貸出を持続的に増強していくことが課題である。
 - (3) 近年の有価証券運用では、円建て債券の残高減少が続いていることなどから、保有債券にかかる金利リスク量は抑制されている。一方で、株式や投資信託、為替リスクを取った外国債券など比較的利回りの高い資産の残高を積み増している。このため、エクイティ系資産や為替にかかる価格変動のリスク量は増加しており、資本対比でみたリスク量が大きい。
 - (4) 金融再生法開示債権比率は 19/3 期末 1.98%と問題のない水準であるものの、前期末比 0.77%ポイント上昇、与信費用も大幅に増加した。景気後退のリスクなどを勘案し、実抜計画の厳格化など債務者区分を保守的に見直したことによる一過性の要因が大きいと JCR はみているものの、今後の動向をフォローしていく。
 - (5) 連結コア資本比率は 19 年 3 月末 11.85%、貸倒引当金などの調整後でも 11%台半ばと、格付「A」の地域銀行の中でも上位にある。リスクアセットの増加を抑制することで、コア資本比率の低下に歯止めが掛かっている。
6. 格付据え置きについて
今回の格付据え置きは、当行の健全性と透明性が適正に評価されたものと考えております。引続き、健全性を維持するとともに地域金融機関としてお客さまの多様なニーズにお応えできるよう努めてまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ先
総合企画部 本島
電話 076-424-1219